

解答は、すべて答案用紙に記入して必ず提出してください。

3 級

第2予想

平成 26 年度
第138回 日商簿記試験対策
ラストスパート模試
問 題 用 紙

(午前 9 時開始 制限時間 2 時間)



第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	受取手形	売掛金
売買目的有価証券	前払金	仮払金	支払手形
買掛金	当座借越	仮受金	貸倒引当金
引出金	仕入	支払手数料	発送費
消耗品費	貸倒引当金繰入	雑損	貸倒損失
売上	雑益	償却債権取立益	受取手数料

1. 大阪商店に対して掛けで販売した商品40個（売価：@¥4,500、原価：@¥3,600）のうち、3個が返品されてきたが、商品の外装が著しく破損していたため、店主が自家消費することとした。
2. 前期に得意先である奈良商店が倒産し、貸倒れとして処理していた売掛金¥18,000のうち、¥12,000を現金で回収した。
3. 売買を目的として、京都物産株式会社が発行する株式を1株当たり¥54で2,000株買い入れ、代金は証券会社に対する売買手数料¥1,800とともに小切手を振り出して支払った。なお、現在の当座預金残高は¥105,000であり、取引銀行と当座借越契約（借越限度額¥300,000）を結んでいる。
4. 仕入先三重商店にかねて注文していた商品¥60,000を引き取り、送料(当店負担)¥600を現金で支払った。また、代金のうち¥30,000については注文時に支払った手付金を差し引き、¥21,000については三重商店受取り、神戸商店あての為替手形(引受済)を振り出し、残額については小切手を振り出して支払った。
5. 商品¥27,000を掛けで和歌山商店に売り渡していたが、借方、貸方ともに¥2,700と記入していたので、正しい金額に修正した。

第2問 (10点)

次の資料にもとづいて答案用紙の小口現金出納帳に記入し、さらに週末における締切りも行いなさい。なお、当店は従来より定額資金前渡制度（インプレスト・システム）を採用している。また、小口現金の報告および小切手による補給は毎週末の金曜日に行われ、小口現金は¥24,000で次週に繰り越されている。

(資料)

10月6日(月)	電車運賃	¥2,100	新聞購読料	¥1,500
7日(火)	バス運賃	¥2,700	切手・はがき	¥2,400
8日(水)	お茶菓子	¥900	コピー用紙	¥4,500
9日(木)	ボールペン	¥600	タクシー運賃	¥3,000
10日(金)	伝票用紙	¥1,200	携帯電話通話料	¥3,600

第3問 (30点)

次の資料(A)および(B)にもとづいて、答案用紙の平成26年10月31日における合計試算表を作成しなさい。

(A) 平成26年9月30日の合計試算表

合計試算表

平成26年9月30日 (単位:円)

借方	勘定科目	貸方
121,800	現金	44,700
306,900	当座預金	102,300
247,500	受取手形	82,500
399,000	売掛金	145,200
38,400	売買目的有価証券	21,900
63,000	繰越商品	
6,000	前払金	
72,000	未収金	
645,000	備品	105,000
81,000	支払手形	243,000
105,000	買掛金	324,000
	借入金	150,000
	未払金	120,000
	前受金	9,300
	貸倒引当金	4,200
52,500	備品減価償却累計額	112,500
	資本金	450,000
	売上	960,000
	有価証券売却益	600
588,900	仕入	
109,200	給料	
27,000	支払家賃	
1,500	支払利息	
10,500	固定資産売却損	
2,875,200		2,875,200

(B) 平成26年10月中の取引

1. 商品売上高

- (1) 現金売上高 ¥474,900
- (2) 手形(当店を受取人とする手形)の受領による売上高 ¥138,000
- (3) 掛売上高 ¥375,000
- (4) 手付金(前月受取)による売上高 ¥5,700

2. 商品仕入高

- (1) 小切手振出による仕入高 ¥234,000
- (2) 約束手形振出による仕入高 ¥159,000
- (3) 手形(当店を受取人とする手形)の裏書譲渡による仕入高 ¥36,000
- (4) 掛仕入高 ¥315,000
- (5) 手付金(前月支払)による仕入高 ¥6,000

3. 手形の決済取引

- (1) 期日の到来した手形債務¥105,000の支払(当座預金口座からの振替)
- (2) 期日の到来した手形債権¥126,000の受取(当座預金口座への振込)

4. 買掛金の決済額 ¥264,000(小切手振出)

5. 売掛金の決済額(当座預金口座への振込) ¥253,800

6. 商品にかかわる手付金の授受

- (1) 手付金の支払額(現金支払) ¥8,400
- (2) 手付金の受取額(現金受取) ¥9,900

7. 備品売却にかかわる未収代金のうち¥42,000の受取(当座預金口座への振込)

8. 売買目的有価証券の売却額(現金受取) ¥10,200

(売却した有価証券の帳簿価額は¥9,900)

9. 備品の購入額 ¥90,000(代金は翌月払い)

10. 前月の備品購入にかかわる未払代金¥120,000の支払(小切手振出)

11. その他の支払額(当座預金口座からの振替)

- (1) 今月分の給料 ¥109,200
- (2) 今月分の家賃 ¥27,000
- (3) 借入金にかかわる利息 ¥1,500

12. 当座預金口座への現金の預入額 ¥474,000

第4問 (10点)

下記の資料にもとづいて、答案用紙における静岡商店の支払家賃勘定(標準式)の記入を行いなさい。ただし、本問では仕丁欄を記入不要とする。なお、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	当	座	預	金	未	払	家	賃	前	払	家	賃
支	払	家	賃	受	取	家	賃	損	益				

(資料)

1. 1月1日(期首)時点において、前期末の決算時に計上した長野商会に対する未払家賃3カ月分¥45,000が繰り越されていたため、再振替仕訳を行った。
2. 4月1日、上記の未払家賃を含む1年分の家賃¥180,000を、小切手を振り出して支払った。
3. 10月1日、富山商店に対し向こう1年分の家賃¥144,000を、三重商店振出しの小切手で支払った。
4. 12月31日、決算につき、必要な処理を行う。

第5問 (30点)

次の決算整理事項等にもとづいて、答案用紙の精算表を完成しなさい。会計期間は1年、決算日は12月31日である。

[決算整理事項等]

1. 現金過不足について、従業員に対する給料¥4,650を現金で支払ったさいに、この取引を誤って¥4,350で記帳したことによるものであることが判明した。残額については原因が不明であるので、適切に処理することにした。
2. 仮受金¥12,000は、得意先より売掛金の代金が当座預金の口座に振り込まれていた取引を記帳したものであった。
3. 受取手形と売掛金の期末残高に対して3%の貸倒れを見積もる。貸倒引当金の設定は差額補充法により行う。
4. 売買目的有価証券の決算日における時価は¥76,800である。
5. 商品の期末棚卸高は¥61,500である。売上原価は「仕入」の行で計算する。
6. 消耗品の未使用高は¥900である。
7. 建物(耐用年数 30年、残存価額 取得原価の10%)および備品(耐用年数 5年、残存価額 ゼロ)について、それぞれ定額法を用いて減価償却を行う。
8. 支払保険料¥1,800は、当期の9月1日に保険に加入し、向こう1年分(12カ月分)の保険料を一括して支払ったものである。次期の費用として計上すべき保険料を繰り延べる処理を行う。
9. 支払利息については、当期に計上すべき金額は¥4,200であるので、期中支払額¥3,600との差額を見越し計上する。